

やはり俺の文通生活はまちがっている。

発光ダイオード

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

高校最後の春、始業式の日に比企谷八幡は交通事故にあった。一ヶ月入院する事になった彼は、妹の小町に勧められ知人たちに手紙を送りつける。

俺ガイルの書簡体小説です。

恋文の技術を下敷きにしています。  
初投稿ではありませんが駄文です。

目 次

心優しいアホの子へ

四月八日

四月十一日

四月十五日

四月二十日

四月二十二日

四月二十七日

四月三十日

俺史上最高厄介なお姉様へ

四月十三日

四月十六日

四月二十日

四月二十三日

四月二十八日

勘違いを続ける副会長へ

四月十一日

四月十五日

四月十九日

四月二十一日

四月二十二日

四月二十七日

雪ノ下雪乃へ 失敗書簡集

失敗書簡（其の一）

失敗書簡（其の二）

失敗書簡（其の三）	
失敗書簡（其の四）	
失敗書簡（其の五）	
失敗書簡（其の六）	
あざと可愛い後輩へ	

四月十二日

四月十四日

64 61 59 56 54 52

# 心優しいアホの子へ

四月八日

拝啓。

こんにちは、お元気ですか。

三年生へ進学し新しいクラスになりぼつちには幾分過ごしにくい季節になりましたが、コミュニケーション能力の高いお前は新しいクラスマイトに対して、どうやつたら空気のように振る舞えるだろう：とか考える事なく高校生活を満喫しているでしょう。楽しそうな姿が目に浮かびます。だが学生の本分は勉学だ。そして高校三年生となれば大学受験が控えている。ただでさえ頭があれなんだからパワーしている場合じゃないぞ。

もう小町から聞いているがもしされないが俺は現在絶賛入院中で、今病院のベッドの上に右足を吊られた状態で寝転がっている。

始業式の日の朝、俺はいつもより少し早く登校していた。家から少し離れたところの交差点で信号待ちをしていると道路の反対側ににボストンテリアとその飼い主が立っていた。俺がじつと見ていると向こうも俺に気づき尻尾を振り始めた。そして何を思ったのかいきなり道路に飛び出してこっちに走って来た。飼い主もいきなりの事でリードを放してしまい、さらにタイミング悪く車もやってくる。このままでは犬が轢かれてしまうのは確実だ。咄嗟に俺は飛び出し犬を庇つた。犬を抱きかかえながら右半身に強い衝撃を受けた俺は、重力をなくして青空を見上げ……そして今に至る。

丁度二年前お前ん家の犬を助けたのと似た状況だが、高校の始まりと終わりの年を交通事故で飾る俺の事を律儀なやつだとは思わないか？思わないよね。

そんなこんなで入院する事になつた訳だがいつ退院できるかはまだ正式には分からぬ。多分長くともゴールデンウイーク明けぐら今までだろう。約一ヶ月だが、新しいクラスもその頃には友達という

馴れ合いのグループが幾つも出来ているだろう。その中に単身乗り込むなど狼の群れの中に兔を一匹放り込むのと同じ事だ。だが、既に二年間の高校生活でぼっちというポジションを確立した俺にとつては一ヶ月の入院によるハンデなどあつてない様なものだ。退院した際にはクラスメイトに気づかれる事なく登校してみせよう。

病院での生活だが、俺を跳ねた車の持ち主が有名な資産家だつた様で、入院費など全て負担してくれた上に専用の病室まで用意してくれた。少し申し訳ない気もするが、個室というのは良いものだ。同室の患者を気にかける事もなく、これならば体も直ぐ治るのではと思えてくる。部屋も広くてすごく綺麗だ。南側の窓からは病院の中庭とそこに咲く桜の木がよく見える。ただ小市民の俺にはこのショーウィンドウの様な窓も広すぎる病室も場違いな気がする。むしろ開放感がありすぎて不安になる。

悩んだ末、人にはすべての物が手に届く四畳半くらいの空間がちょうどいいんじやないかという結論に至ったのが昨日の事だ。

なぜ手紙を書いているかだが、体も動かせないので窓の外を見るしかやることが無かつた。本でも読めればと思い小町に頼んだんだが、あいちは本じやなくて封筒と便箋を袋いっぱいに詰めて持つてきた。話を聞くと母親が知り合いに貰つたらしく、それを小町が譲り受けたそうだ。そしてなぜ俺に持ってきたかを聞くと「この機会に日頃お兄ちゃんがお世話になつてる人達に感謝を込めて手紙を書きなさい」ということらしい。勿論俺は断つた。そんな面倒くさいこと出来ないだろう？メールすらしない俺が手紙など書けるとお思いか。だが小町は一度言い出したら聞かない。俺は抵抗するだけ無駄と悟り、結果としてお兄ちゃんらしく妹の頼みを聞いてやる事になつた。だつて小町の可愛いさには勝てない、これが真理だ。

だが悪い事ばかりじやないぞ。実際に郵便を出していては時間が掛かるということで、手紙は小町が受け渡しする事になつた。小町曰く「お兄ちゃんと文通相手さんの愛の架け橋になつてあげるね！今の小町的にポイント高い！」らしい。つまり、俺が毎日手紙を書けば毎日小町が会いに来るという事だ。

そんな感じで、先ずは一番適当に……気軽に話せるお前にこの手紙を書いている。対人コミュニケーションを極力回避してきた俺からすればまさに都合の良いツールと言えない事もないかも知れない。メールの返事もろくに返さない奴が何を言うかとかそういうのはなしだ。それに今は文法やら何やらめちゃくちゃかも知れないが、書き進めるうちに相手の言動を理解し適切な言葉を選べる様になるだろう。きっと文通の腕を磨けば将来何かに役立つ。例えば編集の仕事とか文字の構成力が大事だつて言うし……。そうすれば人に会わずにコミュニケーションをとるのも思いのままだ。

それではよかつたら返事の手紙をくれ。何か悩み事があれば相談にも乗ろう。

勿々頓首  
比企谷八幡

由比ヶ浜結衣様

## 四月十一日

拝啓　お手紙ありがとう。

まず一言、心配かけて悪かつたな。いや、だつてそんなに心配して  
るなんて思わないだろ普通。実際轢かれたつて言つても骨折しただ  
けで他は至つて健康体だ。それをわざわざ自分から連絡するなんて  
そんなかまつてちゃんみたいな事出来ない：それに自分からメール  
とか面倒くさいし。だがお前が本気で心配してくれていた事は分  
かった。連絡しなくて本当に悪かつた。確かに俺とお前の立場が逆  
だつたら俺も心配してただろうし慌てて正しい行動が執れないかも  
しれない。それを思うと、俺が何処に入院しているのかも知らずに部  
室を飛び出そうとしたお前を止めた雪ノ下はさすがと言うべきだろ  
う。

て言うか雪ノ下さんそんな怒つてました？比企谷許すまじつて何。  
登校したら覚えてらっしゃいとかすげえ怖いんだけど。このまま  
じゃ俺は退院しても登校出来ない。むしろ登校した次の日にまた入  
院まである。

だが俺の反省はしつかりお前に伝わったことだろ、それを雪ノ下  
にも伝えてくれ。そしてお前のその東京湾の様に広く優しい心であ  
いつを穏やかになだめてくれ。俺が一ヶ月後無事に帰つて来れるか  
どうかは由比ヶ浜、お前に掛かっている。

そういうえば手紙が所々水に濡れたみたいにしわしわになつてたけ  
ど何か溢したの？

クラス分けの事教えてくれてありがとう。まさかまたお前と、つい  
でに川何とかさんとも一緒のクラスだとは思わなかつた。何にして  
も俺はぼつちだから教室じや話さないだろけどな、まあまた一年よ  
ろしく頼む。葉山や三浦とクラスが分かれた事は清々している。葉  
山はあんまり好かんし、三浦はすぐ睨んできて怖い。戸部のクラスと  
かどうでもいいし大和と大岡つて誰？

それよりも、もつと重大な事があるだろ。戸塚が別のクラスつてマ  
ジ？二年生の時の俺の学校生活は戸塚がいたからこそ成り立つてい

たんだ。朝クラスに入り戸塚を眺め、昼ベストプレイスでメシを食べた後教室に戻り戸塚を眺め、放課後戸塚を眺めてから家に帰る。それが俺のライフワークだつた。戸塚と別のクラスというのが本当なら、俺は残りの高校生活何を支えにして自分のクラスに居なければいけないんだ。

いや、俺はまだ諦めない。シュレデインガーの猫というのを知ってるか？日本人が大好きなシュレデインガーの猫だ。動物好きとして説明するのはアレなんだが、要するに俺はまだ学校に行つてないから俺の中では同じクラスの戸塚と違うクラスの戸塚の両方が存在しているという事だ。あれ？つまり戸塚が二人つて事？これ最強じゃね？

とにかく俺は一ヶ月後登校するまで、戸塚と同じクラスになるのを諦めない。

由比ヶ浜、異論があるか。あればことごとく却下だ。

次の金曜日にある部活動説明会だが、雪ノ下の言う通りそろそろ内容を決めた方が良いだろう。一色の話だと全部活が入れ替わり話すからそれぞれの持ち時間は五分程度らしいな。手伝えないのが申し訳ないが、たとえ俺が入院してなくとも舞台上で下級生に説明なんぞしたら確実に挙動不振になる。知らない女子と一対一で話すのにも動搖する俺が全校生徒の前で話すなど、笑われる事請け合いだ。そうなればこれは俺の恥ではなく部の恥になるから、俺をどう病院から連れ出すとか二人で画策するのはよせ。

それに学校行事以外にも依頼が入つてくるかもしれないしな。新学期だからって甘えるんじゃないぞ。

小町も奉仕部に入部するだろうから手伝ってくれるはずだ。だが当てにするな、あいつは属性が一色と同じだから自分の興味優先で行動する。まあ感情に流されて暴走する事はないと思うから良いと思うが……。

何にせよお前らなら俺がいなくても何も問題ないだろ。部活動頑張つて下さい。

人々

希望を捨てない比企谷

心の広い由比ヶ浜様

追伸

お前の手紙は気持ちがよく伝わってきて読みやすいが誤字が多い。  
それにもう少し漢字を使った方が良い。アホだと思われるぞ、もう高校三年生なんだし。

## 四月十五日

部活の報告ありがとう。

要するに部活動説明会の発表の仕方でお前たちの意見が割れたからどう思うかを聞きたいんだな？参考になるか分からんがとりあえず思つた事を書く。

まず由比ヶ浜の考えだが個人的にはものすごく興味がある。お前が奉仕部について、ボケを交えながら質問し、雪ノ下がそれにツッコミを入れながら答える。なんともシユールなものになりそうだ。お前はまだしも雪ノ下の突つ込みを入れる姿など想像できない。本当にやるなら病院を抜け出してでも見に行きたい。それが無理なら平塚先生にビデオの録画を頼もう。だが、まあやはりと言うか雪ノ下は反対しているみたいだな。その気持ちは分かる。俺が同じ立場でもやはりやりたくないだろう。説明会まで一週間もないのに今から練習したって当日笑われるのは目に見えている。笑わせるじやなく笑われる…これは精神的にかなりダメージがでかい。お前たちが自尊心を捨てられるなら良いかもしけんが、何れにしても一週間じや厳しそうだな。

次に雪ノ下の案だか：まあ普通だな。別に悪い訳じやなく普通だ。奉仕部の活動内容、実績、入部する事で得られるメリットなどを説明する。實に簡潔で分かりやすい。俺たちは運動部じやないからな、そこまで派手なアピールはいらないだろう。小規模の文芸部がする説明としては十分だと思う。

それぞれ思つた事はそんな感じだが、お前たちは大事な事を忘れている。それは俺たちの部活が奉仕部だと言う事だ。初めは雪ノ下一人で、次に俺が平塚先生に連行されて入部した。雪ノ下は平塚先生に「優れた人間は憐れな者を救う義務がある」と言われたそうだ。つまり俺は憐れな人間と思われていていう事だか今は置いておこう。俺から見れば雪ノ下も平塚先生の口車に乗せられている。優秀であるかそうでないかの違いはあるが、俺も雪ノ下も周りに馴染めていないのは確かだ。要するに奉仕部とは学校生活不適合者（これは雪ノ下

には言わないでくれ）の集まりで、それらを入部させ更生させるのがこの部活の目的だろう。まあ例外もいるがな…。

何が言いたいのかというと、そんなレツテルを貼られるデメリットしかない部活に入りたがる奴はいないという事だ。それを普通に奉仕活動をしていますなどと壇上で言えば勘違いして入部してくる輩が現れるかもしれない。そうして入つてくる奴はきっと余程の変わり者か、もしくは心底奉仕活動がしたい奴だろう。前者ならまだ良いが、後者はまずい。何故なら俺たちはちゃんと奉仕活動をしていないからだ。月に一回か二回来た依頼を解決する。それ以外は紅茶を飲みながら話しているか本を読んでいるだけだ。奉仕活動に乗り気でない俺ですらここは何部かしらと思うほどだ。だとすればやる気に満ちた新入部員はその状況を何と言うか。もし「奉仕部は眞面目に活動していなかつたので辞めます」などと訴訟を起こされ、担任の教師にそれが伝われば最悪の場合奉仕部が無くなる可能性もある。それは避けなければならない。

そんな事が起きないよう、部活動説明会では目立たないように活動内容も詳しく説明しないようにする。そして部活に興味を持たれる前にしつと壇上を去る、これがベストだ。間違つても生徒会の手伝いをしているなんて言うべきじやない。生徒会と繋がりを持ちたいという奴らが入つて来るかもしれない。

まあこれは俺の考えだから参考程度に聞いてくれ。今の俺じや細かい事は分からぬし迅速な対応もできないから最終的にはお前たちが決めてくれたらいい。俺的には小町が入部してくれればそれでOKだ。

雪ノ下に手紙を出さないのかという質問だが、確かに雪ノ下には出していない。だが決してお前と差別してるとか出したくないとか言う訳じやない。実際手紙は書いているが失敗して出せずにいる…。どうも雪ノ下相手だと字の上手さとか文法の使い方とか、いろいろな事を気にして最後まで書けずにいる。仮に出したとして、もし「あなたの手紙だけれど、内容がめちゃくちゃで何が書いてあるかさっぱり分からぬわ。それに字が下手よ」なんて言われたら立ち直れない。

自分の考えを文章にするのがこんなにも難しいとは思わなかつた。

それに比べると由比ヶ浜との手紙のやり取りはずいぶん楽だ。いや、悪い意味じやなくてむしろ良い意味でだ。何の気兼ねなく思つた事を言える。お前の手紙は文章や漢字はアレだが気持ちがちゃんと伝わつてくる感じがする。女子らしい可愛さもあつて、自分もつい思つた事を書いてしまつてはいる。俺もそういう巧みな文章で相手に本音を吐かせられる手紙が書きたい。そうなる事で俺は会話を有さず相手の気持ちを掌握できる様になるのではないだろうか。：そして、まあ、そんな事はないだろう。

とりあえず、お前とやり取りする事で手紙の書き方をマスターし雪ノ下もうんと頷く様な文章を書くため、もうしばらく続けさせてくれると嬉しい。

見舞いに来てくれるのは単純に嬉しいが部活動説明会の準備で忙しいのにわざわざ平日に時間を作つてまでくる事はないぞ。金曜に終わるんだから土日のどちらかでどうだ？詳しい事が決まつたら小町にでも伝えてくれ。

それじゃあ説明会頑張つてくれ。見舞いの時に話を聞けるのを楽しみにしている。

手紙の技術を会得したい比企谷

意外に文通の上手い由比ヶ浜様

四月二十日

挾啓

この間は見舞いに来てくれてありがとう。久し振りにお前の無駄に元気な顔を見たり雪ノ下の憎まれ口を聞けて少し安心した。しかし、てつきり雪ノ下と一人で来るのかと思つていたがまさか一色と小町まで一緒に来るとは……女子が四人も会いに来るなんてどんなラブコメかとも思つたが、何て事はなくただの女子会の様だつた。おかげで俺の病室はかなり騒がしくなつた……ホント個室でよかつたと思つた。

病室は確かに綺麗で良い部屋だつたからな、雪ノ下に「比企谷君には勿体なさすぎるわね」と言われ少しムツとなつたが自分でもそりやそうだ思つたから何も言えなかつた。お前たちは雪ノ下に乗つかつて色々言つていたが、どちらかと言えばお前も一色も俺と同じ一般市民だろ。自分たちの発言がブーメランしている事に気付け。こんな場所に居ても違和感無いのは俺たちの中じや雪ノ下だけだ。

お前たちが食べたカステラは雪ノ下姉が持つてきつたものだ。この間急に見舞いに来てあんなデカいカステラを置いていつた。あんなの一人で食べきれる訳ないのに……。俺がぼつちであるという事を知つてゐるのにわざわざそんな事をするなんて意地が悪いと思わないか？

大きなカステラを一人切り分けて食べた俺の孤独感といつたら言うまでもない。

だからお前たちが来て食べるのを手伝つてくれて助かつた。特にお前はおいしいと言つて夢中でカステラを食べていてたな。小動物みたいでちよつと可愛く見えたが三切れは食べ過ぎじゃないか？四切れ目は食べなくて正解だつたと思うぞ。

そんなに気に入つたなら今度雪ノ下さんにどこで買つたか聞いておこう。

病院でも話したが部活動説明会お疲れだつたな。しかし雪ノ下が馬鹿な質問をしてきた新入生を黙らしたと聞いたときはやつちまつ

たなと思つた。雪ノ下らしと言えばらしいが、それよりも「奉仕部つて事は先輩が俺の事も奉仕してくれるんですか」なんて全校生徒の前で質問できたその一年、よほど肝の据わった奴か、でなければ相当の阿呆だな。中学までならそんな事言つちやうのも分らんでもないがさすがに高校でそれはないだろう。俺だつたら絶対に言わないが、もし間違つて言つちやいでもしたら次の日から不登校決定だ。

そしてそんな一年に雪ノ下が言つた「確かに私たち奉仕部は依頼があれば受けるわ。でも、それは依頼者が悩みを自分で解決する手伝いをするというだけよ。自分で努力しようとする人を助ける気はないわ。そんなに甘えたいならあなたの母親にでも頼んだらどうかしら」という台詞は、言われた本人と少し期待した男子生徒の心を打ち砕き、全校生徒に雪ノ下雪乃という名前を改めて認識させただろう。まあ結果として、奉仕部に入ろうとする新入生はおそらくいないだろう。奉仕部の安寧は守られた。

そう言えば小町が今度依頼をするかも知れないと言つていた。何でもクラスの友達が二人からそれぞれ別の部活に誘われてどうしたら良いか悩んでいるそうだ。まだ入学して二週間しか経つてないのにもう友達つてどういうことだ?俺なんて丸二年過ごしても友達なんて一人もいないのに…。兄妹でこうも違うとは些か悲しくなるが、小町のフットワークの軽さにはいつも驚かされる。自分の興味のある事には尽力を惜しまない。今もお前たちと一緒に奉仕部での活動をしたいと言つているが、どうやら生徒会にも顔を出している様だ。聞く所によると入院して一色を手伝えない俺の代わりに生徒会を手伝つてゐるらしい。それ自体は別に良いんだがどうも嫌な予感がある。自慢じやないがうちの妹もなかなかにあざとい。そんなのがベストオブあざとさみたいな一色と一緒にになつたらと思うと…想像しただけで寒気がする。

由比ヶ浜、小町を見ていてくれ。お前だけが頼りだ。あいつが阿呆な事をしそうになつたらお前の物腰の柔らかさで正気に戻してくれることを期待している。

依頼については入部届の締め切りもまだ時間があるから慌てずに

解決すれば大丈夫だろう。  
それじゃあよろしく頼む。

人々

カステラで孤独を知った比企谷

甘いもの大好き由比ヶ浜様

追伸

病室にあつた小説を知らないか？お前たちの帰つた後読もうとしたら何処にも見当たらない。大事なものなんだが知っていたら教えてくれ。

四月二十二日

挾啓

聞いた話によると何かに気が立つてゐる時、その原因などを紙に書いて自分の中に溜まつてゐるもの吐き出す事によつて気持ちが落ち着くらしい。どうやら書く事で自分の頭から離れ、客観的に考え事ができるようになるそうだ。

手紙読ませてもらつた。お前と雪ノ下と一色がすごく怒つてゐる事がよく分かつた。それだけ盛大に馬鹿だの阿呆だの比企谷マジ許すまじだの八幡だの言えば少しは気が収まつただろう。だつたら怒るのは少し休憩して俺の話を聞いてくれ。俺だつてそんな物があるなんて知らなかつた……俺も被害者の一人だ、真犯人は別にいる。そして八幡を悪口みたいに言うな、地味に傷つく。

一色がなんで俺の小説を持つていたかは一先ず置いておこう。その小説は陽乃さんがくれた物だ。俺が入院中にする事がなくて暇だと言つたら持つて来てくれた。だからお前たちが小説に挟まつていたのを見つけた陽乃さんの写真とメッセージカードはあの人の仕業だ。きっと俺たちを引っ搔き回して楽しもうという魂胆だろう。

確かに陽乃さんは何度か見舞いに来たがお前たちの怪しむ様な事は何もない。俺が陽乃さんにそんな感情持つ訳ないし陽乃さんもまた然りだ。それこそぼつちの俺には無縁の話だ。まあ多少は気に入られている感はあるが、それもちょっと興味がある程度だ。どうせすぐ飽きて終わりだろう。そこらへんは雪ノ下の方が分かつてる筈だ。

あの人はいつも突然来るから俺も迷惑してゐるんだ。昼寝から目覚めたらすぐ側で俺を見てたり、足を固定されて動けないのをいい事にちょつかいを出してくる。こんな調子じや怪我の治りも悪くなる。

だがこんな時こそ平静を装わなくてはいけない。お前たちも取り乱していたら陽乃さんの思うつぼだ。これ以上無償でエンターテインメントを提供してはいけない。だからメッセージカードに書かれ

た「浮気はお姉さん悲しいからしちゃダメだそつ」なんて言葉に惑わされるな、心を強く持て。実際に俺もお前からの手紙を読んだ時は、その写真とメッセージカードを確認したい衝動に駆られたが今は落ち着いている…とても落ち着いている。

とにかく俺は一度陽乃さんに連絡を取る。そして陽乃さんから直接雪ノ下に俺の無実を伝えてもらえば、お前らも俺の事を信じてくれるだろう。だからそれまで落ち着いて待っていてくれ。ぐれぐれも早まつた行動を取らない様によろしく頼む。殴り込みはノーサンキューだ。

土曜日に雪ノ下と駅前へ買い物へ行くそうだな。しかし女子といふのは何故こうもウインンドウショッピングが好きなのか。目的もなく買い物に行くとか考えられん。よく雪ノ下が首を縦に振つたな。どうせお前が強引に誘つたんだろうが、話を聞く分じや雪ノ下も満更でもなさそうだからな。まあ、楽しく行つてくるといい。

駅前と言えば、一色と小町も一緒に買い物に行くらしい。

お前と雪ノ下は話を聞いているか分からぬが、一色は少し前から学校で妙な視線を感じると言つて相談してきた。おそらく一色のあざとさに絆された男子生徒か、一色の事を快く思わない女子生徒だろう。あいつに原因が全く無いとは言えないが誰かも分からぬ様な視線というのは不安になるだろう。事が事だし、相談を受けたからには何とかしてやろうと思う。それに一色もこれに懲りてあざとさを封印するかもしれないしな。お前も少し気に留めていてくれると助かる。

それはそうと、お前たちも十分注意して買い物に行つたほうが良い。怪しい奴は学校よりも、むしろ街中にこそ居るものだ。この世の中聖人君子などほんの一握り、出くわすなど滅多にない。目の前から向かってくる奴はみんな変態だと思え。世の中いい人そうだけど変態の人もいれば、悪そうで変態の人もいる。リア充なんて大体が変態だ。特にお前と雪ノ下が並んで歩いていたら嫌でも目立つだろう。そんな奴らに目を付けられない様、用心してくれ。

早々頓首

清廉潔白な比企谷

激おこぶんぶん由比ヶ浜様

四月二十七日

挾啓

買い物楽しかった様でなにより。しかし丸一日とは…よく雪ノ下の体力が持つたな。そんなに見て回る所があつたとは知らなかつたが、俺なら一時間で用事を終わらせられる自信がある。

マグカップを買ったそしだがお前を含め女子はお揃いとかペアとかいうのが好きだな。仲が良い事は分かるがコップなんて部室にあるのになぜ買う必要があるのかと聞きたくなつた。しかしそれが小町の入部祝いも兼ねてという事だから、なるほど確かにいい考えだと思つた。そういう所に気が付くとはさすが由比ヶ浜。

それと、ひとつ聞きたいことがある。買い物中にお前が送つてきたメールについてだ。「今ゆきのんと買い物中だよつ!!? 可愛いの見つけたんだけどどうかな~似合つてる?」という本文はいい。だが添付された画像はなんだ。雑貨屋の様な所で買い物をするお前たちが写つている…お前の手の角度から自撮りしたんだろう。そして犬耳を着けて楽しそうに笑うお前と、猫耳を着けて恥ずかしそうにこつちを見る雪ノ下。思わず変な声が出た。てつきり服とか選んでるのかと思つたら獸耳とか予想外にも程がある。…似合うか似合わないかで言つたら「まあ似合わなくもない」だ。しかし目立つ事はしない様に言つたつもりだつたんだがなんだこれ。

雪ノ下を二十分かけて説得したそしだがそこまでして撮る必要があつたのか?まさか、俺が陽乃さんの写真を気にしていた事への当てつけか?

金曜日に何の連絡もなしに雪ノ下たちと来ただろう。その時陽乃さんの事は雪ノ下から聞いたからとりあえず俺の事を信じてくれるつて言つてたのは俺の聞き違いかだらうか…。

まあ、あの様子じやまだ納得していない感じが伝わつて來たが、お前だつて陽乃さんに睨まれたら言うこと聞いちやうだろ。下手に反論すれば何倍にもなつて返つてくるうえ、結局言うことをきかされる: 抵抗するだけ無駄だ。それなら嫌々でも最初から言う事を聞くの

が賢い判断じやないだろうか。

そう思つていた……だがそれは誤りだつた。今回、お前と雪ノ下と一色を怒らせると陽乃さん並に厄介だという事が分かつた。手紙を読んではるとお前たちが俺を罵倒しにやつて来た時の姿が思い出される。陽乃さん程的確に急所を突く訳じやないが冷たい目線で侮蔑の言葉を言い放つ雪ノ下。あざとさいっぱいに可哀想な後輩を演じぎやあぎやあ騒ぐ一色。そしてお前は散々俺に文句を言つた後ふと哀しそうな顔をして「…ホント、そういうの嫌だな…」なんて目を潤ませながら言つてくる。一色はおそらく泣きまねだろうがお前は本当に泣いちゃいそうで居たたまれなくなる。

しかし、言う事を聞かなければ陽乃さんに睨まれ、言う事を聞けばお前たちにどやされる…どう転んでも大けがだ。

俺の人生はいつからこうも過酷になつたのか。何とかしないといけないと思つてもいい方法が浮かばないし、目を背けてはいけないと思つても些かか見るに耐えない。

これは責任者に問いただす必要がある。責任者はどこか。至急解決案の提出を求める。

早々

過酷もいいとこな比企谷  
犬耳が似合う由比ヶ浜様

追伸

怪我の容態だが、医者の話ではもう殆ど治つてゐるそうだ。来月の頭には退院するから学校へはゴールデンウイーク明けから登校できるだろう。

四月二十日

挾啓

小町の依頼の件お疲れさま。とは言つても依頼者が自分で解決したという事だから奉仕部としては何もしてないな。結局どちらの部活への誘いも断つたそうだが、まさかその理由が生徒会に入りたいからだとは思わなかつた。小町が生徒会長の一色と知り合いだという事を知らなかつた事から奉仕部を利用しようとした訳じやないだろうが、無理矢理連れて来られたにしても自分で断れるなら何故奉仕部に頼んだりしたんだろうか。自分を取り合う一人の言い争いに耐えきれず我慢していた気持ちを言つてしまつたのか、それとも自分の本当の気持ちを伝える決心がつく様な出来事があつたのか…。

よく分からぬ部分もあるがいずれにしても依頼は解決したんだ、これ以上深く考へる必要はないだろう。ひとつ言える事は小町も奉仕部部員としてまだまだという事だな。これは俺が兄として、先輩として色々と指導してやる必要があるだろう。

入院した頃は一面に淡いピンクの花を着けていた桜の木も五月近くなれば花も落ち青々とした葉が涼やかな風に揺れている。時間が経つのはあつという間で、最初は何をして過ごそうかなどという呑気な事を考へていた俺の入院生活も気付けばもう終わりを迎える。明日、俺は退院する。お前に手紙を書くのもこれで最後だろう。今まで付き合つてくれてありがとう。一ヶ月近く手紙を書いてみたが、当初の目的だつた文通の技術だとコミュニケーション能力だとそんなものはまったく身に着かなかつた。それどころかお前たちの起こす不測の事態に対応するのが手一杯でそんな事考へている余裕が全くない。手紙を書くのがこんなにも大変だとは思わなかつた。お前たちに振り回されてよく分かつた。やはり俺の文通生活はまちがつていると…。もう今後手紙を書く事はないだろう。

だが、まあ確かにお前の言う通り悪いことばかりではなかつたとも思う。顔を合わせて話すとその場ですぐ受け答えしないといけないが、手紙なら相手の言葉をちゃんと理解し自分の気持ちをしつかり考

えて伝えるための時間が持てる。お前がどんな事を思っているのかとか、自分が本当は何を伝えたいのかとか考える事ができたり、普段思つても言えない様な事も言い合えた気がする。やはり言葉にするのと文字にするのじや違うんだろう。だから、普段と違うお前の事を知れた様な気がしてよかつたと思う。

それと、お前が気にしていた雪ノ下への手紙だがさつき書き上げたところだ。どの程度のものを書けたかは分からないが、きっと雪ノ下ならどんな手紙でも呆れた様にため息をつきながら笑い「比企谷君、まったくあなたつて人は…」なんて言つてくるだろう。まあそれで良いと思う：大した事を書いた訳じゃなくただ思つてている事を書いただけだからな。

さて、ゴールデンウィーク明けからまた学校に行く事になるのだがひとつ気にかかる事がある。一色が奉仕部に頻繁に顔を出す様になり今じゃ普通に馴染んでいる。そして新年度になり入学した小町が奉仕部に入り、それと入れ替わる様に入院した俺。

みんなで見舞に来た時やお前の手紙を読んでいて思つたんだが、この短い間に奉仕部の雰囲気は変わつてしまつた様だ。悪いと言つてはいる訳じゃない。ただ女子が四人も揃つたら奉仕部もそんなに賑やかになるのかと思つただけだ。俺が部活に復帰した時、女子トーク溢れるその場所に居続けられるか些か不安である。

確かに今の奉仕部は楽しいのかも知れない。だが忘れてはいけない、俺も含めて全員で奉仕部であるという事を。いや、別にお前たちが楽しそうにしているのが羨ましいとか、混ざつて一緒に話したいとかそう言うのじやない。ただ、お前たちの話を聞いていると落ち着かない。胸の奥がモヤモヤする。だから俺は退院したら奉仕部でのポジションを確保するために行動しようと思う。そうすればきっとこの胸のモヤモヤを振り払い落ち着きを取り戻せるだろう。

由比ヶ浜よ、心して待つといい。では、また学校で会おう。

早々頓首

決意を新たにした比企谷

心優しい由比ヶ浜様

# 俺史上最高厄介なお姉様へ

四月十三日

拝啓。

先日は見舞に来てくれてありがとうございます。まさか雪ノ下さんが来るとは思つてもいませんでした。生徒の情報を学外の人間に教えるとか、平塚先生の口の軽さには困りものですが雪ノ下さんもわざわざここまで来なくともよかつたでしょう。「すごく心配したんだよ」なんて言われたら普通は嬉しくなっちゃいますが満面の笑みで雪ノ下さんに言われたとなれば良い予感はしません。それに来るなら一言連絡が欲しかった。俺が昼寝をしている時に来て、しかもずっと寝顔を見てたとか恥ずかしすぎて死ねます。目が覚めた時すぐ側に雪ノ下さんの顔があつて「おはよう」なんて言ってくる有り得ない状況に、寝ぼけていた俺がその顔に触れようと手を伸ばしてしまった事は誰にも責められない筈です。なので捻られた右手の痛みの代わりという訳では無いんですけどその事は雪ノ下たちには言わない様にお願いします。

カステラありがとうございます。ですが見舞いの品としては少し大きすぎじゃないですか？俺一人で食べられるわけ無いでしょう。確かにそのうち雪ノ下たちが見舞いに来るかも知れませんが、それでも食べきれるか分かりません。ひょっととしてカステラを一人で切り分けて食べる孤独を味わえという嫌がらせですか。タチが悪いです。せめてカステラがどれだけ保存が効くか教えて下さい。雪ノ下さんならそれくらい当然の様に知っているでしょう。

知つていると言えば、俺が手紙を書いている事をどうして知つていたんですか？その事を知つている人間はまだそれ程いないのに相変わらず恐ろしい情報収集能力ですね。俺にも情報を集めるコツを是非教えてほしいものです。そうすればクラスのリア充どもの弱みを握り、残りの高校生活を有意義に過ごせると思うんです。

：冗談はさておき、俺は手紙の持つコミュニケーション能力が如何

なるものかという事を至つて眞面目に調べているんです。雪ノ下さんの言う様な邪な気持ちなど全くありません。それを「面白そうちから私もやる」なんて本気で言つているんですか。しかも投函していた時間がかかるし俺がちゃんと書かないかもしないと言う理由で「毎週日曜日と水曜日に手紙を受け取りにくるからそれまでに書いておく様につ！」って何ですか。こういうものは自主的にやるから良いのであつて強制されてやるものじやないんじやないかと思うんですけど…。学校の課題か何かですか？ネット然りテレビ然り、如何なる娯楽も義務と言う言葉が付くと途端にやりたくなくなるのは何故なんでしょうかね？

とはいえ雪ノ下さんがやると言つた以上避ける術はないので、俺は潔く、こうして手紙を書いているわけです。ですが雪ノ下さんが飽きたらいつでも止めて構いません。来るものは拒まず去るものは追わず、比企谷八幡はそういう男です。まあ文通だから水曜日に俺が手紙を渡して日曜日に雪ノ下さんが手紙を渡すことになると思うので、週一通書くと考えればそれ程面倒臭くは無いでしょう。

それではお返事お待ちしています。

匆匆頓首

比企谷八幡

雪ノ下陽乃様

追伸

何か欲しい物があれば持つて来てくれると言つてましたが、それなら何か本を持つて来てくれませんか。小町には手紙の邪魔になるからと言つて取り上げられてしましましたが、一日中手紙の事を考えてる訳でも無いし息抜きも必要だと思うので、どうぞよろしくお願ひします。

## 四月十六日

拝啓。

お手紙ありがとうございます。まさか今週中にもう一通手紙を書く事になるとは思いませんでした。て言うか俺の手紙を受け取った瞬間に封を開けて読み始め、そしてそのまま病室で返事を書くとかおかしくありませんか？しかも三十分程で書き上げてしまうなんて：おまけに字がとても綺麗だ。書いた時間よりも込めた気持ちが大事と仰るのは分かりますが、俺が何時間も掛けて書いた事を思うと若干の虚しさがあります。それに普通文通といえば相手のいない所で読むものでしよう。その場で読んじやつたらわざわざ書く意味が無い。だつて直接話せばいいんだから。そのあたりの事を雪ノ下さんはどう考えているのでしょうか。

持つて来てくれた小説少し読みました。何年か前に深夜アニメでやつていたのを見た覚えがあります。確かに不毛な大学生活を過ごしてきた腐れ主人公が薔薇色のキャンパスライフを夢見て並行世界を迷い歩くという様な話だったと思いますが、何処か俺に似ている所なんてありますか？確かにぼつちである俺の高校生活は端から見たら不毛に見えるかも知れません。ですが俺はこの小説の主人公と違い自ら進んでぼつちの高校生活を謳歌しているので、たとえ現状が似ていてとしても捉え方が違えばそれは全く別物だと言えるでしょう。まあ強いて似ている所を挙げるとすれば腐った部分を持ち合わせているという所ぐらいですかね。

リア充を遺憾なく発揮する雪ノ下さんには全く分からぬ感覺だと思いますが、雪ノ下さんは卒業した高校に頻繁に顔を出さずもつとキャンパスライフを楽しんだほうがいいと思います。一色に聞きましたが、来月の進路説明会に卒業生として話をしに来るそうです。その打ち合わせを今日…もう夕方なので丁度今している頃でしようか。高校に来る事に楽しみを見出すのは構いませんが、雪ノ下と合うたびに不穏な空気になる様子を、俺と由比ヶ浜が肝を冷やしながら見ているという事もお忘れなく。それに一色もこのところ入学式の挨

拶やその他学校行事の手伝いなどで忙しそうです。明日には部活動説明会もあるし、来月には生徒総会もある。奉仕部も手伝っているそうですが、あまりからかい過ぎたり変な入れ知恵をしないようにして下さい。そういうた時のしわ寄せは、何故かいつも俺の所に来ます。

前の手紙でも雪ノ下さんの情報収集能力の高さについて書きましたが、何故俺が雪ノ下に手紙を出せずにいる事まで知っているんですか。俺の情報はWikipediaにでも載つているのでしょうか。情報の出所を教えて下さい。そしてこれ以上俺の事を詮索しないで下さい。ここから先は法に触れる事になるでしょう。俺は雪ノ下さんを犯罪者にしたくありません。

確かに俺は手紙の書き方もろくに知らず、雪ノ下の事もちゃんと理解しているとは言えません。そんな中で手紙を書いてもきっと何も伝わらないでしょう。だから雪ノ下さんが雪ノ下の事を教えてくれると言うなら、それは素直に聞き入れようと思います。雪ノ下さんの妹自慢がどれほど手紙に影響するか分かりませんが、俺も可愛かつたあの頃の雪ノ下というのには少しばかり興味があります。

ただ、こちらだけ一方的に教わるのも悪いので、代わりと言う訳ではありませんが俺も小町の事をお話ししようと思います。こう言つちや難ですがうちの小町もそちらの妹さんに負けず劣らず可愛い妹をしています。仮に世界妹選手権があれば、間違いなく日本代表に選ばれる事でしょう。

小町は小さい頃家に誰もいないのが嫌で家出したことがあります。その時は俺が迎えに行きましたが、それ以来俺は妹より早く帰るようになりました。そんな小町を思い出して、俺は入院する事になつた時「両親も帰りが遅いし、そのうえ俺までいなくなつて家に一人で居ることになるが大丈夫か」と聞きました。すると「小町は大丈夫だよ。それよりお兄ちゃんは家の心配より自分の将来を心配したほうがいいよ」と応えました。妹の成長と自分より兄の事を思いやれる心に感動し、その日俺は病院の枕を濡らして：枕を高くして眠りにつきました。

話したい事はまだ尽きませんが最初という事もあるのでこのくらい

いにしておきます。雪ノ下さんの妹自慢楽しみにしています。では  
また日曜日。

匆匆頓首

個人情報保護を求める比企谷  
妹大好き雪ノ下様

四月二十日

拝啓。

お手紙ありがとうございます。桜の花はやはり綺麗でいいですね。俺も緑の上に座つて風を感じながら花見がしたいですが怪我が治る頃には桜ももう散つてしまつてはいるでしょう。けれど病室から見る桜も中々良い感じなので、今年はそれで我慢する事にします。

俺の手紙について、雪ノ下さんの言う様に自分でも雪ノ下さんと雪ノ下のどちらの事を書いているのか分からなくなる時があります。姉妹なので名字が同じなのは仕方ないですが、二人を名前で呼ぶ程親しくないのでそれについては若干気が引けます。ですが書き間違えば雪ノ下さんにも雪ノ下にも非難されるのは目に見えています。それに手紙を書く上で読みやすさが大事という事は学んだので、迎合する訳ではありませんがこれから雪ノ下さんに限つては陽乃さんと書く事にさせて貰います。

実際に会つた時は雪ノ下さんと呼ぶので、変な期待はしないで下さい。

陽乃さんがどうやつて俺の事を知つたかですが、まさか知り合いの看護婦が働いているとは思いませんでした。小林さんは確かに俺の居るフロアを担当しているので色々とお世話になつていいます。たまたま手紙を書いている所を見られたので説明しましたが、それが陽乃さんの差し金であると最初に気付くべきでした。この時少し褒められたからつて得意気になつて答えた自分に言いたい。「これは戻だ、恥ずかしいから見栄を張るな」と。

そんな陽乃さんならもう知つていると思いますが土曜日に雪ノ下が見舞に来ました。由比ヶ浜と一色と小町も一緒でみんな好き勝手喋つてましたが陽乃さんに貰つたカステラは美味しいと言つて食べていました。俺はカステラはあまり食べないので違いとか分からなかつたんですがそこそこ良いやつだったんですね、どうもありがとうございます。あいつらも満足そうだつたし俺もカステラをいい感じに消費できたので、お互いウインウインな結果になつたと思います。

特に由比ヶ浜はすごく気に入った様で一人で三切れも食べていました。そんなに食べたら太るぞと忠告したらサイテーと言つて怒られましたが、あいつは食べても太らないタイプだから大丈夫だそうです。吸収した栄養がいつたいどこへいくのか少し気になりました。

ところで、由比ヶ浜がカステラを自分で買いたいそうでどこで買つたか教えてもらつてもいいですか？

陽乃さんは小さい頃から雪ノ下に変な事ばかり言つていたんですね。雪ノ下が陽乃さんを苦手に思う一端を垣間見た気がします。虫歯にならぬよう」という理由で「キャラメルは頭の良くなる薬だから一日一個しか食べちゃダメ」なんて、俺も小さい頃似た感じで言われた氣がします。ただ「二つ以上食べると雪乃ちゃんの頭とお姉ちゃんの頭が爆発するから絶対に食べちゃダメだよ」ってなんですか。雪ノ下は、まあ食べた本人なんで分からなくもないですが陽乃さんの頭が爆発するのはどんな原理ですか？誘爆ですか？それとも怒りで爆発するみたいな事ですか？だとしたら怖すぎます。そして次の日、目から大粒の涙を溢しながら陽乃さんの部屋に入つてきて「ごめんね：お姉ちゃん。キャラメル：おいしくてふたつ：食べちゃつた…。もう食べないから…だからばくはつしないで…。」と言いながら陽乃さんの頭を撫でようとする雪ノ下…その様子を想像すれば、思わず陽乃さんがひしつと抱きしめてしまうのも分かる気がします。仮に俺が陽乃さんの立場でも同じ事をしていただでしょう。……今気持ち悪いと思つたかもしませんが大丈夫です。俺も自分で読み返して若干引きました。

確かにその頃の雪ノ下は可愛いのかもしれません。ですがうちの小町も負けてはいません。俺が手紙を書き始めるとき小町からひとつ忠告されました。どうやら俺は手紙を書くと人格が変わるらしい。兄を思つて言つた事でしようが俺にはその自覚はないし、仮にそうとしても何故小町が知つているのか…そう考えていると、ふと昔二人でお手紙ごっこをして遊んだ時の事を思い出しました。知りませんかお手紙ごっこ？姉妹が居たら一度はやつた事があるでしょう。その時小町とは何通か手紙を交換したんですが途中で返事が来なくな

り、理由を聞くと「お兄ちゃん途中から口調が変になつてキモい」と言われました：今はつきり思い出しました。まあそれも昔の事なので今の俺はきっと大丈夫でしょう。ちなみに「何でも言う事聞いてくれて変に律儀で真面目な捻<sup>ねじ</sup>デレのお兄ちゃんが好きだよっ！これ、小町的にポイント高い！」と書かれた手紙は今でも机の奥にしまってあります。

最後に、陽乃さんから貰つた本は無くした訳じやありません。病室から動けない俺が何処か持ち出せるわけ無いでしょう。恐らく由比ヶ浜が見舞いに来た時に自分の本と間違えて持つて帰つたんでしょう。あいつは頭がちょっとアレなんでやりかねません。次に陽乃さんが来るまでには持つて来てもらうのでどうか怒りを鎮めてくれると助かります。傍から見れば笑つている様に見えますが、俺には笑顔の下から不穏なものが溢れ出ている様に感じます。陽乃さんなら表情を作る事など造作も無いと思うんですがやはりわざとでしょうか：いえ、不満がある訳じやありません。今回の事は全面的に俺が悪い。だた情状酌量の余地は十分にあると思うので、それをふまえた上で次は心穏やかに来てもらえた嬉しいです。

匆匆

昔を思い出しても少しセンチメンタルになつた比企谷  
笑顔を崩さない陽乃様

## 四月二十三日

拝啓。春たけなわの季節となりましたがいかがお過ごしでしょうか。俺はといえば先日の小説の件で奔走しています。陽乃さんは最初からご存知だつた様ですが小説は由比ヶ浜ではなく一色が持っていました。今はまだ手元にありませんがひとまずそれは置いておきましょう。

俺は今怒りに満ち満ちています。その昂りは超サイヤ人もかくやと思うほどに怒髪天を衝いています。陽乃さんが小説に挟んだ写真とメツセージカードのお陰で現在人生稀に見る修羅場を迎へ、そのせいで由比ヶ浜と一色に便箋から溢れんばかりの罵りを浴びせかけられ危うく溺れる所でした。雪ノ下については由比ヶ浜の手紙を読むと「比企谷許すまじ」なんて言つてる様なので、これは早急に誤解を解かないと禍根を残しかねません。

何故陽乃さんはこのようない誰の得にもならない事をするのでしょうか。気付かない俺も俺ですが、頼んでもいないのにこうも勝手に活躍されては全く手に負えません。しかも先週進路説明会の打ち合わせで学校に来た時、「一色に『比企谷君は今小町ちゃんに本を読むのを禁止されてるらしいから見つけたらこつそり没収してあげてね』なんて言つたそうですね。そのせいで一色は小説を持ち去り写真とメッセージカードを見つけてしまったのです。そしてそれを雪ノ下たちに言いつけたものだから俺は今前述の様な手紙を受け取り、不毛な誤解を解かなければならなくなつたのです。全ては陽乃さんが独自の情報網を駆使して油を撒いた側から火をつけて修羅場の炎を燃え盛らせた賜物でしょう。先日来た時の陽乃さんは、笑顔の下に怒りや哀しみを隠しながら実はやつぱり笑っていたんですね。本当に反省して頂きたい。

もうすぐ怪我も治りますが、このままでは俺は退院しても学校に戻る事が出来ません。例え戻つたとしても次の日にはまた入院する可能性まであります。そんな俺を少しでも可哀想と思う心がまだ陽乃さんにあるのならどうか雪ノ下に説明して誤解を解いて下さい。

今あいつらじゃ多分俺の言う事に聞く耳持たないでしようが雪ノ下なら陽乃さんの言う事は聞いてくれるでしょう。そうすれば後は雪ノ下があいつらに説明してくれる筈です。週末には三人で来るそういうのでそれまでに何とか話をして欲しいです。先程怒っていると書きましたがそれは嘘です。全く怒っていません。寧ろ尊敬しています。だから本当に陽乃さんだけが頼りです。今まで散々俺を振り回した事を思えばこれくらい聞いても罰は当たらぬと思うのでどうかよろしくお願ひします。

取り急ぎ。

あなたの下僕比企谷八幡

雪ノ下陽乃閣下

## 四月二十八日

拝啓。

こんにちは。先週末雪ノ下たちが病院にきました。大体の事情は陽乃さんから聞いたので理解したと言われたので、陽乃さんがちゃんと雪ノ下に話をしてくれたみたいで安心しました。結局あいつらには最低だの節操がないだの八幡だのぶちぶち言われましたが、誤解が解けていたという事もありとりあえず無事に解決することができました。まあ原因自体も陽乃さんなので素直に感謝できないところもありますが俺もう高校三年生、四捨五入すれば立派な大人です。陽乃さんの様な人にもしつかりお礼が言えてこそ立派な大人の男と言えるでしょう。どうもありがとうございました。

予想だにしない事態に大いに振り回されましたか日が経つに連れて大分落ち着きを取り戻す事ができました。そうなるとだんだん頭も働いてくるので、俺は何故陽乃さんがこの様な事を仕出かしたのかを改めて考えてみる事にしました。面白そ�だつたからと貴女は言いますが、本当にそれだけでしようか？確かにそれも理由の一つかも知れませんが陽乃さんは意味のない事はしない筈です。ならば真意は他にあるのではないかとも思いましたが、きっと陽乃さんは聞いてもらちゃんと答えてはくれないでしょう。雪ノ下に聞いてみても知る訳が無いと一蹴されましたし、陽乃さんが何と言つて誤解を解いたのかについても何故か教えてくれませんでした。ひよつとすると雪ノ下に関係する事なのかとも思いましたが考えても謎が深まるばかりです。

俺は個人情報をこんなにも開示しているのに自分の知りたい事は知れないというこの不条理さは何なんでしょうかね。

しかし、それでもひとつはつきり分かった事があります。それは陽乃さんが事を起こせば起こすほど俺の人間関係が崩壊していくという事です。ぼつちのくせに人間関係を語るとは何事だこのやろうと思いでしようが、俺は常に非接触の人間関係を築いているんです。自分から波風を立てる様な事はしません。なのに陽乃さんが辺り構

わざ火の粉を振り撒くもんだから俺は雪ノ下たちから謂れの無い罵詈雑言を受ける事になるんです。今の過酷な状況は全て陽乃さんの活躍の賜物と言つても過言じやありません。

本当なら直ぐにでも止めて欲しいところですが、こんな事を言つても陽乃さんのやることは変わらないでしようし、むしろ今まで以上に嬉々として跋扈するまである。そうなつてはひとたまりもありません。なので俺はこれ以上事態が悪化しない様に、あえて陽乃さんのやる事に口出しあしません。ですがもし、それにも拘らず陽乃さんが俺の人間関係を完膚無きまでに崩壊させる様ならその時は責任を取つてもらうしかありませんがそれくらい望んでも罰は当たらぬでしよう。

ですので陽乃さんはその事を心に留めて、これからも活躍して下さい。事態がこれ以上悪くならなければみんな幸せなのです。

今週末に退院することになりました。手紙を書くのもこれが最後になるでしょう。陽乃さんとの文通は期間こそ短かつたですが毎回何が書いてあるのか分からぬといふ恐怖に怯えながら読んでいたので、やつと解放されたと胸を撫で下ろしています。そして、もうひとつつの事案である雪ノ下への手紙ですが相変わらず何を書いていいか分かりません。陽乃さんから雪ノ下の話は結局少ししか聞けませんでしたし、この文通生活で得た物は無く、逆に色々と大切な物を失つたとさえ思います。しかしこんな状況でも、雪ノ下には手紙を渡すと言つてしまつた以上書かなければいけないので、俺としては罵られる覚悟でとりあえず思つた事を書いていくしかありません。書かなければより怒られるでしようしね。ですが手紙から受ける恐怖への耐性は陽乃さんとのやり取りで十分過ぎるほど身に付いたので雪ノ下についても多分大丈夫でしょう。それについては陽乃さんのお陰と言えます。ありがとうございました。

それでは、俺のこの気持ちが変わらないうちに手紙を書き始めようと思いますのでこのあたりで失礼します。

決意を固めた比企谷八幡  
俺史上最高厄介なお姉様へ

## 勘違いを続ける副会長へ

四月十一日

### 拝復

お手紙ありがとう。まさかお前から手紙をもらうとは思わなかつた。手紙を受け取り、誰からかと差出人を確認するとやはり誰からだと思った。新手の嫌がらせかと疑つたがよくよく中身を読んでみるとお前が生徒会副会長だと判明した。ていうかお前の名前本牧つて言うのな、初めて知つたわ。

俺に相談があるとの事だが、言われた時点ではそれが一色関連の事だと察しがついた。それぐらいしかお前と接点がないからな。普通なら入院している俺よりも奉仕部の奴らに依頼するのが正しいんだが、まあ一色を生徒会長にした遠因もあるし、お前は「一色いろは被害者の会」のよしみもある。なのでやぶさかではあるがその依頼引き受けけてやる。だが俺は一色係じやない、これだけはよく覚えておく様に。

ここ数日一色が放課後に生徒会室に来ないという事だが、先月から入学式や始業式の準備やらなんやらあつたしな、俺たち奉仕部も駆り出されたぐらいだから相当忙しかったんだろう。まして生徒会長様となれば全校生徒の前で話さなきやいけないから、俺たち一般生徒には分からぬプレッシャーもあるだろう。

ていうかまだ学校始まつて一週間も経つてないのにそこまで騒ぐ必要無いんじやないか。

むしろ俺が気になつたのはお前の行動の方だ。一色を心配する気持ちちは分からなくはないが、「会長は朝は普通に登校して授業は普段通りに受けていた。昼休みも生徒会の集まりがある時はちゃんと出席しているし集まりが無い時はクラスの友達と弁当を食べているみたいだ。午後の授業も変わりない。だけど放課後になるとすぐには帰ってしまうんだ。最初は奉仕部に行っているんだと思つたけどそんな様子は無いしサッカー部にも顔を出していない。そして校門を

出る時も普段とは逆方向に帰っていくんだ。これは家に帰っているとは思えない。しかも……”つて怖すぎるんだけど。どんだけ一色の事見てんだよ。ていうかお前これ授業受けてないよな。ここが学校でお前が副会長という立場じやなかつたら確実に通報されているレベルだ。自重しろ。

一色の事は俺が何とかしてやるからお前はこれ以上おかしな行動はするな。それが一色の為でありお前の為であり、ひいては学校の平和の為でもある。

ところで、この手紙は妹の小町から受け取った訳だが、どうしてお前が小町と関わりを持つてているんだ？事と次第によつてはお前を副会長の座から引き摺り下ろし、残りの高校生活を辛く哀しいものにするまであるぞ。心して答える様に。

敬具

比企谷八幡

生徒会副会長 本牧牧人様

四月十五日

挾啓。

一色が無事生徒会に来る様になつてなにより。大した事はしていないが、一色もちゃんと生徒会に顔を出すと言つていたから多分丈夫だろう。まあ奉仕部へ行く為にちよくちよく抜け出す事はあるだろうが息抜きだと思つて大目に見てやつてくれ。あいつもなんだかんだでお前の事は頼りにしてるゝみたいなことを言つていたぞ。

そんな事より、まさか小町が俺の代わりに一色の手伝いをしているとは思わなかつた。どうりでお前と面識がある訳だ。けどなんであいつらはその事を俺に言わないんだろう？何か言えない様な事を企んでいるのだろうか。

確かにうちの妹は可愛いし協調性もあつて周りに気がつかえる：俺と違つてな。生後間もない頃の小町は純粹無垢の権化であり、その名の通り小野小町の赤子時代もかくやと思われる愛らしさ、邪念のかけらもないその笑顔は郷里の山野を愛の光で満たす程であった。それが今はどうだ。いつの間にか身につけたあざとさを遺憾無く発揮し父親や兄をジャグラーバリに手玉に取つてゐる。

そんな小町があざとさマスターの一色と一緒に行動してゐるなんて考えただけでも氣が滅入つてくる。このままでは学校中の男子生徒があいつらのあざとさに惑わされ無益な争いを生む事になるだろう。生徒会副会長よ、今こそお前の出番だ。あいつらの事をさり気なく見守り、意味不明な事をしそうになつたら阿呆な事は止めろと諭してくれ。俺はお前の頼みを聞いたから、今度はお前が俺の頼みを聞いてくれる事を期待してゐる。

それとこれだけは言つておくが、いくら可愛い後輩の兄からの頼みだからと言つて小町に変な氣を起こすんぢやないぞ。お前の役目は一色と小町のなだめ役及び小町にまとわりつく羽虫の駆除だ。一緒になつてブンブン飛んではならない。お前の事だから心配はしないが、かと言つて小町のあざとさを思えば必ずしも安心とは言えない。

そういうえばいつだつたかお前が学校の女子と一緒にカフエから出てくる所を見かけた事があつたな。確か三つ編み眼鏡の生徒会書記だつただろうか。どんな関係だと詮索する気は無いが、もしお前が入学して間も無い一年生にうつつを抜かす様な事になつたらあの眼鏡書記はさぞかし悲しむ事だろう。悲しみのあまり泣いてしまうかも知れない。もしくは雪ノ下さながら侮蔑の眼差しと共に罵詈雑言を浴びせてくる事もあり得る。ああいう一見氣弱でおとなしそうなやつこそ何を仕出かすか分からぬ。そうなればお前は生徒会副会長を解任され、残りの高校生活を辛く哀しい思いで過ごす事になるだろう。

そんな事態にならない様に本牧よ、心を強く持て。決してあざとさに屈してはいけない。総武高校の安寧はお前の双肩にかかるつている。

早々

比企谷八幡

本牧牧人さま

追伸

小町は学校での出来事を教えてくれるが都合の悪い事は言つていなかとも知れない。おかしな行動を見かけたら逐一教えて欲しい。

## 四月十九日

前略。

昨日はせっかく見舞いに来たのに話の途中で帰つてもらつて悪かつたな。せめてカステラだけでも食わせてやりかつたんだが、それが出来なかつた事が悔やまれる。お前が病室を出て後少し経つてから雪ノ下たちと一緒に一色と小町も来たが、世間話を延々と聞かされたあげく各々好き勝手喋り一方的に満足した様子で帰つていった。どうやらここに来る連中はお前を含め何故か自分の事ばかりを話しあがつて俺の話を聞こうとしない様だ。まあ一日中ベッドに寝転がつてゐるだけなので大して話す事など無いし学校の話を聞けるので不満は無いがもう少し俺に興味を持つてくれてもいいんじやないだろうか。なんだか奉仕部での俺の存在がじわりじわりと薄れ最後には溶けてなくなつてしまふ様に感じる今日この頃である。

こんな事を言われてもお前は自分の悩みで精一杯だろう。見舞いの時に多少話は聞いたが一色の件が解決したばかりだと言うのに次から次へと忙しい男だ。確か今年入学して來た中学時代の後輩の事だつたか。そいつはずつと総武高に入学したらお前のいる生徒会に入ると言つていたが、先日の部活動説明会の後しばらく考えさせて欲しいと言つてきたそうだな。

要するに説明会を聞いて生徒会よりも気になる部活があつたが、お前との約束の手前素直に他の部活に入りたいとは言えず悩んでいる、そんなところだろう。こんな事少し考えれば予想は付くのにお前は何をそんなに悩んでいるんだ。それにどちらかと言えばお前よりもその後輩の方が悩んでいる筈だろう。

まあ俺には自分を慕う後輩なんていないしお前とお前の後輩がどれほど仲が良かつたのかは知らないが、ぼつちである俺に出せる答えはひとつだけだ。たとえお前が高校に入学した後も後輩と繋がりがあり相手もお前の事をよく慕つていたとしても、そんなのは人生において一時的なもので時間と共に風化していく。まして通う学校がバラバラになつたとなれば疎遠になる事も至極当然と言える。それに

片方が相手の事を想つていたとしても、もう片方にとってはそこまで  
じや無いなんてこともざらある。つまり人間とはすれ違う生き物で、  
そうやってすれ違いを繰り返す事によつて集団に囚われない立派な  
ぼつちへと成長していくのである。

お前にできるのは後輩の成長を見守り、そいつの返事をしつかりと  
受け取る事だけだ。別に入らないと言つているわけじや無いし本当に  
に生徒会に入りたいならちゃんと言つてくるだろう。まあ部活動に  
集中したいなら生徒会なんて面倒な仕事はやらないのが普通だろう  
から変な期待をせずに待つのが賢明だろう。

話は変わるが、小町が三年生の女子に絡まれているのを見たそudd  
な。一瞬動搖してナースコールしそうになつたが、その相手が細身で  
長身に加えて青みがかつた長い白髪を後ろで一つにまとめていて、右  
目に泣きぼくろがあり不機嫌そうで人を寄せつけない雰囲気を放つ  
ていたと言うなら問題は無い。そいつは俺も小町もよく知る人物だ。  
確か川なんとかさんと言つて小町の中学の頃のクラスメイトの姉で  
もある。多分普通に世間話していただけだろう。

去年のクリスマスイベントやバレンタインの試食会にも妹の付き  
添いで参加していたから顔を合わせてるはずだが、どうもお前はひとつ  
の事に集中すると周りが見えなくなる様だ。そして相手が知り合  
いかどうかは忘れるのに特徴は細かく覚えている観察眼…どれだけ  
見てるんだ。細かすぎて気持ち悪くもある。

まさかとは思うがまだ一色にも似た様な事をしていないうな。  
お前の事だからそんな事していなうと思うし、仮にしていたとしても  
真面目さ故の行動だらうと理解しているが少し落ち着け。冷静に行  
動しさえすればお前は立派な副会長だ。

草々

比企谷八幡

悩みに事欠かない副会長様

追伸

見舞に来た時本を見なかつたか？あの日以来何処にも見当たらぬ  
いので何か知つていたら教えて欲しい。

## 四月二十一日

拝啓。

お手紙ありがとう。あまりに返事が早くてびっくりしている。

入院をしてから数人と文通をしているが、今回お前から受け取った手紙はその中でも群を抜いて枚数が多い。他の追随を許さない程だ。しかも内容はと言えば土曜日の話の続きだろうかお前とお前の後輩の思い出話が延々と書いてあるだけなので、これは苦行かと思うほどなんの面白みも無く読むのに大変苦労した。とはいえるこんな話を面会終了時間まで聞かされてはたまらないので、それを考えれば手紙で良かつたとも思える。

まあどちらにしてもどうでもいい話ばかりだ。『放課後目隠しリレー』のくだりなどツッコミだしたら限りがないが、お前が思つてたよりも阿呆な事と、中学でも後輩と一緒に生徒会に入つていて仲が良かつた事はよく分かつた。確かに手紙を読む限り後輩は生徒会に入りたいと思つてているだろうし、お前も入つて欲しいと思つてているのが分かる。

では何故後輩は自分の本意ではない事を言つたのか…お前が何について悩んでいたのか理解したし、乗りかかった船もあるから協力はしよう。だが、その前に一言言わせて欲しい。

お前は色々と悩みを抱えていて大変かも知れないが俺の方がもつと大変だ。いや、大変というよりまじでヤバい。お前が突き放す様に知らないと言つた本を巡つて、強化外骨格を纏つた魔王をはじめ関係者各位から謂れの無い疑いをかけられ、さらに弁解する暇もなく雨霰と飛び来る罵詈雑言に身をやつしている。足を骨折していくなかつたらすぐにでも逃げ出しているところだ。この逃げるに逃げられない状況…差し詰め無実の罪で死刑勧告を受け、刑の執行を待つ囚人の気分である。何故俺の人生はこうも過酷になってしまったのか……。

若干話がずれてしまつたが、分かりやすく要約するとお前の事を手伝つてやるから問題が解決したらお前も俺を手伝つてくれ、という事だ。

ちなみにこれは決定事項であり、異論があればことごとく却下だ。まず何故後輩は自分の本意ではない事を言つたのかだが、考えられる理由として自分より上の立場の人間に命令されるという事がある。例えば親や教師、はたまたお前以外の先輩などから当部活へ入れと言われる。もちろん部活は強制ではないため普通なら断ればいいがおまえの後輩は気が弱いので人の頼み事を断れない。その事は“校門人間アーチ”的話から明らかだ。そしてそんな性格故に同級生からの誘いも断れない可能性がある。まだ入学したばかりで相手がどんな人間かも分からぬから、下手に断ればそれが原因でクラスから孤立するかもと考えたのかも知れない。普通の人間からすればなるべく避けたい事案だろう。

しかし、あくまでも推測で理由は本人に聞くしか分からないが、はつきりしている事がひとつある。

それは生徒会に入つて欲しいとお前自身が思つてゐる事だ。他に確かな事がない以上これが唯一の武器となる。お前はこれをもつて自分の気持ちをしつかりと後輩に伝えるんだ。そうしなければ、きっと“昼休みプリキュア事件”的二の舞になるだろう。

言つてどうにかなる保証は無いが言わなければどうにもならない事は保証できる。

人とはすれ違う生き物で、言わなくとも分かり合える関係も、何でも言い合える関係も、相手を理解できる関係も、全て理想であり望んでいるだけでは手に入らない。何も持たない俺たちがそれを望むのなら必死にならなければいけない。そして必死になつて行動した時に初めて理想を手に入れるチャンスが生まれる。おそらく一度では手に入らないだろうが何度も繰り返すうちに少しずつ近づいていか、本物になるだろう。

とまあこんな事を言つてゐるがなにも考えが無い訳じやない。お前が後輩に自分の想いを伝えそれがクラスに知れ渡つたとしよう。例えば後輩を誘つたのがクラスメイトだとすれば、クラス中が生徒会に入ると思つてゐる中で誘い続ける事はおそらくないだろう。学校という閉鎖されたコミュニティの中で上級生というのはそれなりの

力を持つているものだ。ましてお前は生徒会副会長。形式上この学校で二番目に偉い生徒だ。そうなれば自然と身を引くだろう。

そして上の立場の人間だつたとしても、それが教師であればこちらの意見を聞いてくれるだろう。生徒の自主性を重んじるのが教師であるし総武高校はそれなりの進学校でもあるので、大学入試の際にアドバンテージになる生徒会での経験をむしろ応援してくれるまである。

また、二年の先輩だつたとしてもお前は三年だから全く問題はない。相手も三年の場合は少し面倒だが、話が縛れるような教師に仲裁に入つてもらう手もある。先ほどの理由からもこちらの味方をしてくれるだろう。

何れにしてもお前が行動してこそだ。前にも言つたが冷静に行動しさえすればお前は立派な副会長だ。健闘を祈る。

久しぶりにいい事を言つた気がする比企谷  
放送室でスイッチが入つているのに気付かずプリキュアのオープニングを口ずさんだ本牧様

四月二十二日

こんなには。その後、後輩とはどうですか。

とは言つても昨日の今日でその後も何も無いだろうと思つてゐるだろう。俺もそう思う。だが言わずにはいられない。今日の俺は昨日よりも増してヤバさMAXである。もうてんてこ舞いのきりきり舞いである。お前には一刻も早く後輩との問題を解決して俺を手伝つてほしいと思つていたが、それももう手遅れなのかもしない。

女子たちの怒りは昨日から全く鎮まる様子を見せず、小町からも「お兄ちゃんの事は好きだけどさすがにそれはちょっと…」と悲しいものを見る様な目で言われた。弁明しようにも原因の人物とは全く連絡が取れない。どうでもいい時にはすぐ連絡してくるのに必要な時に限つて音信不通というなんとも厄介なお姉様である。今もきっとどこかで俺が慌てふためく姿を見て楽しんでいるのだろう。

また、ここが病院で身動きが取れない状況であることも精神的ダメージが大きい。この足が骨折していなかつたらすぐにも遠くへ逃げ出したい。具体的には舞浜にある運命の国まで逃げ出したい。

お前は知つてゐるだろうか。あそこは国というだけあって日本の法律も適応しないらしい。この国では異端とみなされるばつちも優しく迎え入れてくれる素晴らしい所だそうだ。そしてその争いの無い世界ならば俺は現在身に降り掛かる様々な喧嘩から解き放たれ、取り戻した安寧とともに幸せに暮らせるのではないかだろうか。

聞いた話によるとずっと子供の心を忘れないでいる人間のところには、同じく子供の心を持つた青年と妖精が現れて運命の国へ連れて行つてくれるらしい。であればぼつちというのは他人との接触がないためいつまでも純粹で清い心＝子供の心を持つてゐると言つても過言ではないだろうから、つまり俺が今ここで手を合わせて心の底から願いさえすれば窓の外から彼らがひらりとやつて来きて「やつほー八幡君、迎えに来たよっ！」と言つてくれるに違いない。そして妖精の粉を振りかけられた俺の身体はふわりと浮かび上がり、足の怪我も完治し、窓から病室を飛び出し彼らと一緒に運命の国まで飛んで行く

のだろう。

唯一の心残りとしてはお前たちがどうなるかを見届けられない事  
だがお前ならばきっと大丈夫だろう。自信を持つていけばきっと上  
手く行く。

そして全て丸く収まった後二人で運命の国に来る事があれば、その  
時は俺が精一杯もてなしをしよう。

それではさらばだ。

運命の国に住む永遠の少年 比企谷  
本牧牧人様

四月二十七日

拝啓。

お手紙ありがとう。あれから手紙が来なかつたのでどうしたもののかと心配していたが無事に解決できたようで俺も安心している。結局お前の後輩はクラスメイト二人から別々の部活に誘われていたというおおよそ予想通りの状況だつたわけだが、そんな事よりも俺はお前が思い切つた行動をとつた事に驚いている。いや、単純に褒めているのである。まさかお前にそんな度胸があつたとは思いもよらなかつた。

後輩の教室に一人で行つたお前は勢いよく扉を開け中に入つていく。そして教壇に立ちクラス中の視線を一身に集める中、後輩を生徒会に入る様に勧誘したという。ここまでされれば生徒会に入るのも自然だろうし、クラス公認になつたことで二人のクラスメイトも諦めがついただろう。直球もいい所だが実に効果的である。

て言うか一年C組つて小町のクラスだろ。あいつに相談した方が早かつたんじゃないだろうか…。

ともあれ無事に解決できて良かつたな。こつちはお前がもたもたしているせいで自力で解決するはめになつたが、無事とは言えなくともなんとか解決することができた。尚、負傷した俺の心が癒えるのは一ヶ月ほど時間要するので当分この件には触れないでほしい。

お前の助けは借りられなかつた訳だが、お前から受け取つた手紙には「色々助けてもらつたから今度は比企谷の方を手伝うよ。人という字は人と人が支え合つてるなんて言うしね、お互い助け合おう。」と書いてあつたな。實に良い心掛けであるが一言いわせてもらおう。人という字は支え合つてると言うが、あれはよく見ると片方が寄りかかっている。スクールカーストの低い人間が高い人間、つまりぼつちがリア充の犠牲になることを容認してるのが人という概念だ。そんな言葉をもつて助け合いなどと言つても言葉の意味が薄れるだけだ。対して俺の名前にある“八”という漢字を見る。お互いが干渉する事無く絶妙な距離感を保ちそれが自立している。この非接触こ

そ、理想の人間関係と言えないだろうか。『人』という漢字は『八』という形になる途中のいわば未完成な漢字で、なんなら『八』を『ビト』と読んでもおかしくないのかかもしれない。

要するに何が言いたいのかというと、リア充爆発しろ、と言う事だ。また話が逸れてしまつたが、しかしお前の申し出を無下に断るのも気が引けるので、別の案件だが少し手伝つてもらいたい事がある。奉仕部にとつて重大な事だ。一色が部室に顔を出す様になつてから奉仕部も賑やかな雰囲気に変わり、そして今年からは入院した俺と入れ替わる様に小町も入部した。俺のいない奉仕部の様子が気になつたので小町に聞いてみたところ、連日の様に女子トークが繰り広げられているらしい。詳細は分からぬがこの間四人で見舞いに来た時の様子をみると、すでに女子たちだけの世界が形成されている様だつた。見舞に来ているはずなのにほとんどあいつらだけで会話が完了し俺の存在を小指の先程も気に留めていなかつた。

特に小町は俺が部室に居る所を知らないし、なんなら「お兄ちゃんは部室に居なくていいかなー」なんて言われるまである。

このままで非常にまずい。俺は奉仕部での居場所と存在価値を守る為に行動しなければいけない。作戦は既にあり、後は実行するだけだ。ついてはお前の協力を必要とする。

今度の祝日に病院まで来てくれ。詳しい事はその時に話す。  
草々

孤高の軍師 比企谷

大胆不敵 生徒会副会長 本牧様

追伸

先日お前に出した手紙だが、あの時の俺はどうかしていた。あんな恥ずかしい物は無い。あの手紙はこの世に存在させてはいけない物だ、必ず人を不幸にする。お前には、あの手紙を十字に切り裂き火をつけて灰にし、未來永劫記憶の彼方へ封印する事を勧める。

# 雪ノ下雪乃へ 失敗書簡集

## 失敗書簡（其の一）

四月十日

拝啓。

桜花爛漫の候となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。総武高校最上級生となりクラス替えも行われ何かと不安もあろうかと思いますが、雪ノ下であればそんなものはどこ吹く風とばかりに今までどおり歯に衣着せぬもの言いで己の道を切り開いている事でしょう。

現在俺は市内のとある病院の一室で足を固定されたままごろんと横になり、窓の外を見ては物想いにふけるという生活を送っています。もう知ってると思いますが交通事故に巻き込まれたのです。奇しくも一昨年、犬を助けようとして車に轢かれた様に。我ながらまるで成長していないと思います。一ヶ月程入院する事になり、普通の学生なら四月という始まりの月を学校で過ごせないのはクラスからの孤立を意味する程致命的な出来事ですが、既にぼつちとしてできあがつてている俺にはそれ程ダメージはありません。

そういえば俺が何処に入院しているのかも知らずに部室を飛び出そうとした由比ヶ浜をなだめ止めたそうですね、その冷静さに感服します。

雪ノ下の事だからこんな俺に呆れ、「いい機会だから、ついでにその腐った目と捻くれた性格も治してもらつてはどうかしら」などと言うかも知れません。

ですが今の俺はまさに、その目と性格をはじめ全てのマイナス要素を克服しようと奮闘しているのです。その証拠に、毎朝七時に起きて九時に寝るという規則正しい生活をしています。そして大学受験の為に何度も過去問を解き、動かせない足の代わりにダンベルなどで上半身を鍛える。おかげで頭脳明晰、筋肉はむきむき、身長も伸び、コミュニケーション能力抜群の男に生まれ変わりました。

病院内ではそんな俺を見た、なんと半数以上の人人が「比企谷八幡は

将来ビッグになる」と回答しています。イルクーツク国立大学のソロボツチ博士（脳科学者）の名著『孤独を経験した者』によれば俺の様にぼつちを経験した者こそ、二十一世紀の日本社会を先導するに相応しい人間になるのだそうです。次はあなたがこの新生比企谷八幡の効果を体感する番です。そうすれば、希望大学に一発合格、就職したその年で年収は一千万を超え、休日のたびにデステニーランドを貸し切り、お肌ツルツル髪サラサラの悠々自適な生活が（中断）

### 【反省】

真面目な手紙を書こうとするど、どうも相手との距離感がおかしくなる。雪ノ下に対しても少しへりくだり過ぎだろうか。

前半はそれ程おかしくないと思うが後半に行くにつれ何とも怪しい文面になってしまった。自分に秘められた願望でもあつたのか、コミュニケーション能力とか将来ビッグにとかのたまい、しまいには深夜の通販番組の様な胡散臭い文章まで出てきた。こんな手紙じや雪ノ下に罵られるのは明らかだ。少しでも立派に見られたいと思つても嘘は良くない。

それにしても「イルクーツク国立大学のソロボツチ博士（脳科学者）」とは、いつたい誰だ。自分でもなんのつもりで書いたか全くわからない。どうかして いた様だ。

もつとキツチリと書こう。大言壯語するのは良くないが、真面目で頭のいい雪ノ下ならばもつと節度ある折り目正しい文章を好むだろう。それを意識して書けば、手紙もおのずと誇り高くなるのではないだろうか。

## 失敗書簡（其の一）

四月十三日

拝啓。

平素は格別の賜り厚く御礼申し上げ候。

雪ノ下様におかれましては、総武高校最上級生となり頑張つておられるごとと存じ候。何かと不安なこと多かれども、雪ノ下様であればそんなものは恐るるにたらぬことゆえ、己の道を切り開いていけると申し上げ候。

小生比企谷八幡、市内とのある病院の一室にて足を固定されたまま横たわり、窓の外を眺め物想いにふけるといふ生活を送り候。なによりえこのような事になつたかといわば、始業式の日、道ゆく人の飼い犬の道路に飛び出たるに、車などやつて来ては事故を起こしそうにりける。

咄嗟に身体が反応し飼い犬を庇つた為、このように入院する事と相成り候。

じつに不毛な日々なり。されど毎日の規則正しき生活、定時に起床就寝を繰り返し候。ずっと寝てゐるだけなれど朝昼晩の食事も出てきたりけるし、呼べばすぐさま何者かが来やる。あとは人も交らず、病室に引きこもりつつ見る心地、帝の位も何にかはせむ。實に小生の願つたりける環境であると言えるで候。

されど、かの生活がとわに續けばと願えども現実そうは甘くないなり。一ヶ月もすればこの桃源郷を追い出され候。いみじく心もとなきまことに、消しゴムで薬師仏を作りて、「ずっとここで暮らさせたまえ、誰か養つてくれたまえ」と、身を捨てて額をつき、折りもうすほどに願ううち、一日は過ぎ去りける。この願いを成就させる方法を見つける事こそ、入院期間中に与えられた使命だと存じ候。

聞くところによると、今週の金曜日に部活動説明会が行われる御様子。全校生徒の前で所信表明演説をするなど、考えただけでも恐ろしい事なれど、雪ノ下様は超優秀ゆえ、その様な事はおちやのこさいさであると存じ候。それに由比ヶ浜様もいるゆえ、二人揃えば鬼に金

棒猫に小判、無敵タッグの完成に御座候。小生の力添えなど必要ありません。なので二人で病院から連れ出す算段を立てるのはやめて欲しいと存じ候。

匆匆頓首

【反省】

暇つぶし機能付目覚まし時計を片手に古典と現代文の教科書を駆使し、丸一日を費やして書いたというのにこの有様である。誇り高く折り目正しい文章を書いていたつもりが、内容は単にダメな男だった。そりや書いてるのが俺だからしようがない。それを差し引いても、時代錯誤な文章もあいまつてかわいそうなヒト感が抑えられない。だいたい文語文なんて書いた事無いんだから確実に間違っているし、雪ノ下に罵られるのは明らかだ。

慣れない言葉を無理に使つたのは間違いだつた。雪ノ下とは知らない仲じやないんだし、もう少し碎けた文章で書こう。親しみを持つて話しかける様に書けば血の通つた文章になつて、自ずと人間味溢れるすばらしい手紙になるに違いない。

とりあえず疲れた。指が痛いので今日はここまで。

## 失敗書簡（其の三）

四月十五日

やつはろーゆきのん、八幡だよ。いえい！

新学期始まつたけどもう新しいクラスにはもう慣れた？周りに知らない人だらけって落ち着かないよね、考えただけでちょー憂鬱！ゆいゆいみたいにすぐ人と仲良くなれるのはすごいなーって思うけど、初めて会う人に自分から話しかけるなんて俺には絶対ムリっ。でもよく考えたら二年生のときもぼっちだったし、知らない人だらけのクラスから知らない人だらけのクラスに変わっただけだから結構へーキかもね。ちょっと安心（笑）。

そんな俺は今、絶賛入院中です。入院って言つても少年院とかじやないよ、交通事故で入院しているのです。ここではベッドに寝転がつてるだけで何でも看護師さんがやつてくれます。ご飯も運んで来てもらえるし、呼んだらすぐ来てくれるし、まさに天国かもつて思つちやう。居心地が良すぎて、ずっとここでくらしたいなーって思うけど来月には退院しなくちゃいけないんだ、人生そんなに甘くないよね。はあ、誰か養つてくれないかなあ。

突然ですがここで問題つ！

ジヤジヤンつ！そんな何でもしてもらえるステキな生活なんだけど、少し不満があります。それはいつたい何だと思う？

3……2……1……、はいつ、時間切れ！

これは体験した人なら分かると思うけど、ゆきのんにはちょっと難しかったかな？正解はものすごく退屈ということです。自分では何もしなくていいんだけど、逆に何もする事が無いから暇すぎて死んじやいそーなのデス。

あまりに暇すぎて小町に何かすることない？つて聞いたら紙袋を持つてきてくれたんだけど、その中身はナント便箋と封筒つ！なんでもお母さんが知り合いの人に入つたらしくって、それを小町が貰つたんだつて。それでなんで俺に持つてきたのかつて聞くと「この機会に

日頃お兄ちゃんがお世話になつてゐる人達に感謝を込めて手紙を書きなさい」つて言われました。正直めんどくさいなーつて思つたけど他にする事もないし、小町の頼みだから仕方ないよね、だつてお兄ちゃんでもんつ。

そんな訳でこうやつてゆきのんに手紙を書いてるわけデス。ちよつぴり恥ずかしいけど、思い切つて書きました。

もしよかつたらお返事下さいネつ！

でわでわ、あでゆー

### 【反省】

これは恥ずかしい。ひよつとすると今世紀最大の怪物を生み出してしまつたかもしれない。由比ヶ浜や一色をお手本に親しみやすさを込めて書いてみたが、これを書いた奴は阿呆かと思うほど頭の悪さが滲み出している。そしてこの手紙の最大の問題は一、読んでいる人を非常にイラつかせるという事だ。むかつく。心底むかつく。仮に由比ヶ浜や一色がこの手紙を書いていたとしてもここまで神経を逆撫でされはしないだろうから、原因があるとすればおそらく俺自信だろう。こんなものを最後まで書き上げてしまつた自分が許せない。とにかくこれは雪ノ下に送るわけにはいかない。送れば確実に罵られる。

いくら親しみを込めてといつても俺が由比ヶ浜のまねをするのは無理がある。演じるにしてももつと自分にあつたキャラクターがあるはずだ。他人のまねをせず、自分らしく振る舞うように心がければ、手紙も自然に俺らしくなるんじゃないだろうか。

## 失敗書簡（其の四）

四月十八日

春、それは新たなる世界のはじまり。冥界より現れし精靈が目覚める瞬間をお前も感じただろうか。

今日はよくぞ俺の病室まで来てくれた。本来ならば、魔力で厳重にプロテクトされたこの空間への侵入は不可能だが、奉仕部という闇の力が集中する場所で同じ時を過ごした俺たちは言わば闇の靈魂を共有する魂のソウルメイツ。

お前たちは混沌なるカオスの世界へと導かれた。ウエルカムトゥダークサイド。

雪ノ下にも見られてしまつたが俺のこの包帯に包まれた右脚……表向きは交通事故での骨折という事になつてゐるがそれは世界を欺くためのカムフラージュに過ぎない。実際は封印された暗黒竜が暴れ出すのを防ぐ拘束具なのだ。

この拘束具はプリーステスの神聖なる術によつて作られたものだが、暗黒竜を身に宿した俺にとつては如何なる浄化の力も危険な物として受け付けない。今も刻々と封印が弱まり、暗黒竜が俺の身体を奪おうとしているのが分かる。

このままではいずれ封印は解かれ、この病室に張られた結界も破られてしまう。そうなれば様々な機関がこの力を狙つてエージェントを送り込んでくるだろう。

この手紙をお前が読む頃、俺はすでに人間ではないかも知れない。抗う事を諦め、弱体化した精神が暗黒竜に飲み込まれ、ただ目の前に映るもの全てを破壊する傀儡になり下がつていてるかもしだね。

そんな気配を今、俺は感じている。だからこの手紙を書いた。

雪ノ下雪乃よ、お前には力がある。睨んだ相手を一瞬で氷付けにする様な冷ややかで理知的な眼差し。俺もその眼光と、共に発せられる罵詈雑言に何度も心の灯火を搔き消された。

しかし俺は気付いた。お前こそが俺の中に封印された暗黒竜の闇の炎を抑える事ができる唯一の能力、絶対零度『アブソリュート・ゼ

ロ》の使い手である事に！

悠久の時の流れから選ばれし存在。他の誰でも無い、お前は特別だ！今こそその力を解放し、この俺に新たな封印の術式を施すのだ。そうすれば俺は自我を保ち、お前のサーヴァントとして世界を革命する力となるう。

さあ、時は来たつ！共に世界の果てへと赴こうつ！そうすれば（中断）

### 【反省】

前回の手紙の反省から他人を真似てはいけないと学んだ筈だが、自分らしく振る舞うにあたつてどうしてよりもよつて最も阿呆な中二の頃の自分を引つ張りだして来てしまつたのか。

確かに当時はこれがものすごくカッコいいと思つていた。英語の原書を読み始めてみたり、コーヒーもただ苦いだけなのにブラツクに拘つてみたり、自分には特別な力があると信じてオカルト系に思いきり倒れこんでみたり……思い出すだけでも悶え苦しんで爆散しそうになるくらい恥ずかしい。

それにしても暗黒竜とは何だ、絶対零度《アブソリュート・ゼロ》とは何だ、世界を革命する力とか世界の果てとか一体何なんだ。単語のひとつひとつが強烈に光を放ち過ぎて失明しそうだ。

こんな物を雪ノ下に送るわけにはいかない。送れば確實に罵られる。これは押し入れの奥深くにある黒歴史箱《ブラックボックス》に押し込んで封印せねばなるまい。

上辺だけの振る舞いではなく、もつと自分をさらけ出すべきなのだろうか。どの程度までが失礼に当たらぬのか見当がつかない。

いや、いつそ俺の事は置いておいて、雪ノ下を褒めちぎつてみるのはどうだろう。褒められて嬉しくない人間などいない筈だ。そうすれば雪ノ下だつて、多少手紙に難があつても気持ちよく読んでくれるのではないか。

## 失敗書簡（其の五）

四月二十二日

拝啓。

平素は格別の賜り誠にありがとうございます。

由比ヶ浜と一色から聞きましたが、雪ノ下がもの凄く怒っている事が伝わってきました。確かにお前たちが馬鹿だの阿呆だの八幡だの言いたくなる気持ちは分かります。だが待て、しばし。

全ての元凶はお前の姉、陽乃さんにある。あの人人が無闇矢鱈と活躍して、俺たちが惑わされるもんだから、やる事がどんどんエスカレートするんだ。その事は俺なんかよりも姉妹であるお前の方がよく分かっているはずだ。

冷静になれ。雪ノ下は由比ヶ浜と一色、三人の中で唯一の頭脳。考える事を止めてはいけない。感情に任せて殴り込みに来るような事があれば、それこそ陽乃さんの思うツボだ。

俺は一度陽乃さんに連絡を取る。そして陽乃さんから直接、雪ノ下に俺の無実を伝えてもらえれば、お前も俺の事を信じてくれるだろう。だから怒るのは待て、しばし。

それに怒つたらせつかくの綺麗な顔が台無しだ。

長いまつ毛。薄く可愛らしい唇。澄み切った河川の様に、艶やかに流れ落ちる黒髪。愛宕山のように悠然な面持ちで、神秘的にそびえ立つ鼻。美しく切り揃えられているのに、決して人工的に見えない眉毛。広すぎず狭すぎず、實に手頃な大きさの高性能な脳が入っていると思わせる額。そしてその両側に鎮座します、ふにふにと柔らかそうな耳たぶ。ふわりとした風にそよそよなびく産毛の一本一本は完璧な調和をもつて並び、射し込む午後の陽にキラキラと輝いて見える。

褒め出したらキリが無いほど雪ノ下はスバラシイ。

あまりにスバラシさに感服し、俺は自分の無能さを嘆いた。本当に俺は何も出来ない人間であつた。怠惰であり、無力であり、ぼつちであつた。

雪ノ下は立派だ。お前の才能の前には、俺なんぞ何の価値も無い人間だ。中学の連中と同じ高校に通いたく無いと言う理由でこの高校に入学した根性なしです。高校三年間をぼつちとして過ごそうとする全校のお荷物です。こんなに腐れゴミ虫が、雪ノ下の様な才色兼備の人に手紙を送りつけるのが、そもそも生意気なのだ。俺のみつともない文章で大切なパルプ資源が浪費され、地球温暖化が加速し、株価は下がり、日本の未来は暗くなる。

ああ、何ゆえ俺は存在しているのだろうか。消えて無くなれ、地球と人類の為に。この独りきりの病室で、カステラの角に頭をぶつけ死ねばいい。もしお前が道を歩いていて俺が転がっていたら、遠慮なく踏んで行つてくれたらいと思う。いや、むしろ踏んで欲しい。ゴミ虫を見る様な侮蔑の眼差しで踏んで下さい。トイレに入った後の上履きのかかとでムギュツと（中断）

### 〔反省〕

陽乃さんの事があつたから、何とか雪ノ下を落ち着かせようと色々書いてはみたが、書けば書くほどおかしな文章になっていく。

前半はまだいい。だが雪ノ下を褒め称えた辺りから何だか分からなくなる。と言うかこれはどう読んでも褒めている文章じやない。いくら愛宕山が千葉県最高峰と言つても全国の山々と比べられてはひとたまりもないし、雪ノ下の鼻だつてそこまで低くはない。それに何処の世界に耳たぶや産毛を褒められて喜ぶ女子がいるのだろうか。これはもう、ただただ気持ち悪いだけだ。

そして後半は雪ノ下へのフォローのあまり、自分を下げに下げて何だか卑屈な人間になつてしまつた。これは俺の心からの言葉ではない。いくら何でもカステラの角で頭をぶつけて死ぬ必要は無いと思う。比企谷八幡は、そこまで無価値な人間ではないはずだ。ないはずだつ！

当然、こんな手紙を雪ノ下に送るわけにはいかない。送れば確實に罵られる。

下手に褒めたり卑屈になり過ぎたりしてはいけない。しかし、それ

なら一体何を手紙に書けばいいのか。

陽乃さんのせいで満身創痍になつた俺には皆見当もつかない。

## 失敗書簡（其の六）

四月二十七日

拝啓。

桜が散つて新緑の眩しい季節となつてしまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。時の経つのは早いもので、俺が入院してからもうすぐ一ヶ月が経ちます。明々後日には退院し、来月のゴールデンウイーク明けには無事学校に復帰できるでしょう。

この一ヶ月という、短い時間の中で色々な事があつた。その間に何度も雪ノ下に手紙を書こうとしたが、書き上げる事が出来なかつた。そして今回の手紙も、どうやら書き上げる事が出来そうにない。

俺はお前に、立派な手紙を書こうとしていた。その為に文通の練習もしたし、陽乃さんにお前の幼い頃の話を聞いたりもした（これはあまり手紙の参考にはならなかつた）。そして何度も書いてみたが、どれも渡すに値しないものばかりだつた。そんな事をして手をこまねいているうちに、先日の陽乃さん事件が起きたのだつた。お前たちから謂れの無い非難を雨霰の様に受け、心身ともに疲弊し、もはや満身創痍だつた。

しかし、それでも俺は書いた。そしてやつぱり挫折した。

俺は雪ノ下がうんと頷く様な手紙を書きたいと思っていた訳だが、そう意気込んで腕まくりをして机に向かうと、何だかヘンテコなもののが出来上がる。それだけならまだいいが（よくはないが）、自分でも引くくらいに氣色悪いものが出来たりもする。

なぜこんなものが出来上がるのか自分でも全く分からぬ。ひよつとして俺は“立派な手紙を書けない病”にかかっているのかもしれない。

入院当初の俺はもっと単純に考えていた。文通を重ねるうちに相手の言動を理解し、適切な言葉を選べる様になるだろうと。その伝達技術を洗練させれば万事解決である。だが、世の中そんなに甘くない。俺にはできなかつた。机に向かいペンを走らせる時、途端に文章はヘンテコな方向へ逸れて行く。

原因を探り、改善しようと努力した。  
しかしもう、万策尽きてしまった。

そういうわけで俺は立派な手紙を書く事を諦める。  
この手紙も雪ノ下が読むに値しない手紙だと思う。

### 〔反省〕

現在、四月二十八日の消灯前。この一ヶ月の事を振り返りながら昨日書いた手紙を読み直してみたが、これは俺が思うに今まで一番まともな手紙では無いだろうか。

これまでの失敗書簡を全て読み返してみた。  
最後にもう一度だけ雪ノ下に手紙を書くとすれば、どう書けばいいか。

ここに教訓を記す。

- 一、大言壯語しないこと
- 一、賢いふりをしないこと
- 一、他人のマネをしないこと
- 一、中二病を暴露しないこと
- 一、下手に褒めたり、卑屈にならないこと
- 一、立派な手紙を書こうとしないこと

## あざこと可愛い後輩へ

四月十二日

拝啓。

こんばんわ、突然の手紙で申し訳ない。

春爛漫の好季節を迎えて、毎日お元気でご活躍のことと存じます。二年生へ進級し、クラス替えもあり、後輩もでき、新しい環境に期待する反面、不安なこともあるでしょう。特に一色はそのあざとい性格ゆえ、男子からの受けは良いが同性からの評判はすこぶる悪い。新しいクラスでいじめられてやしないかと心配です。

けれどお前は去年の半年間、一年生ながら生徒会長を勤めてきた。それにクリスマスやバレンタインの企画を成功させた実績もある。きつとクラスメイトもすぐに「こいつ、ただあざといだけのヤツじゃないぞっ」と一目置いてくれることでしょう。

生徒会では、日々職務に追われ忙しく過ごしているみたいですね。先月から卒業式、入学式、始業式と立て続けに行事が行われるうえ、これからさらに、部活動説明会や進路説明会もある。

いくら生徒会長と言えど、まだ二年生に進級したばかりなのにそれ程までに頑張る一色の事を、俺は本当に凄いと思います。お世辞とか抜きにして、本気でそう思っているのです。

だからお前がお見舞いと称して、俺の病室まで息抜きに来る事は別にやぶさかではありません。俺は病院でずっと寝てるだけで暇だから、学校の話とか色々と聞けて結構楽しかったりします。

だが、さすがに毎日は多くないか？

確かに「いつでも来ていいぞ」と言つたが、あくまで方便だ。それを真に受けて、毎日来るのは思わないだろ。そのせいで俺は、フロア担当の小林さんから「比企谷君の彼女可愛いね」とか「今日も彼女来るの？」とか、毎日言われる様になつてしまつた。彼女いない歴2年齢である俺としては嬉しい勘違いであるが、それと同時に、全力で否定して俺を振る一色の姿も想像できる。告白してもいないので何回

振られるんだ俺は。

なので俺は自ら「彼女？なにそれ？おいしいの？」と言つて、女子の手すら握った事がない事を説明しなきやならない。

全く、傷口に粗塩を擦り込む思いだ。

それにお前が好きなのは葉山だから、身勝手な噂に振り回されるのは嫌だろうしな。

お前の所の副会長に聞いたんだが、放課後の生徒会の仕事をサボつてるそうだな。

「今週はわたし暇じゃないですか」なんて言いながら、舌をペロつと出すあざとい仕草に誤魔化されていたが、よく考えたら全然暇じやないだろ。今週の部活動説明会の準備はどうした？

入院して手伝つてやれない俺が言うのもなんだが、こんな所にまで来て油を売つている場合じやないぞ。

一色の事だ、来るなどいつて言う事を聞くようなやつじやない事はわかってる。むしろムキになつて余計に張り切るまである。

話は変わるが、先日小町から大量の封筒と便箋を渡された。話を聞くと母親が知り合いに貰つたらしく、さらにそれを譲り受けたそうだ。小町曰く「この機会に日頃お兄ちゃんがお世話になつてゐる人達に感謝を込めて手紙を書きなさい」ということらしい。勿論俺は断つた。だが小町はお前同様、一度言い出したら俺の言う事なんて聞かない。抵抗するだけ無駄と悟り、結果お兄ちゃんらしく妹の頼みを聞いてやる事にした。

まあ小町の可愛いさには勝てない、これが真理だ。

なので一色よ、俺とお前で文通をしよう。学校での出来事を手紙に書いて送つてくれ。そうすれば今まで通り情報交換ができるし、お前も毎日見舞いに来て生徒会をサボる必要もなくなる。

最初は面倒かもしれないが、手紙を書き進めるうちに相手の言動を理解し適切な言葉を選べる様になるだろう。人と会わざしてコミュニケーションをとることも思いのままだ。きっと将来何かに役立つ。例えば、前に言つてた編集長になるのにも必要なスキルだろう。

それに、一色のプラスになることだつてある。文通の腕を磨けば相

手の心を射落とすラブレターだつて書けるようになるはずだ。俺を含めラブレターを貰つて嬉しくない男子なんていないだろうし、葉山もまた然りだ。

それではよかつたら返事をくれ。受け渡しについては小町に頼んである。何か悩み事があれば相談にも乗ろう。

匆匆頓首

比企谷八幡

一色いろは様

## 四月十四日

拝啓。

手紙ありがとうございました。こうやつて返事をもらうと、先日由比ヶ浜から手紙で怒られたことを思い出す。そういうえば一色が初めて見舞に来たときも怒られたつけな。あまりにも大声出すもんだから、看護師さん達が何事かとわらわらやつて来て、お互いすごく恥ずかしい思いをしたな。

まあ、連絡先を知らなかつたとはいえ心配かけて悪かつたな。直接会うと言えなさそうなので、手紙で伝えることにする。

決して自分から連絡するのが面倒くさいとかそういうのじやないから、それは念を押して言つておく。

放課後は生徒会の仕事をする様に考え方直してくれて何より。とは言つても、それが普通なんだけどな。

それと、副会長のことをそんなに悪く言うのは止めてやれ。あいつは思いのほか阿呆という事が発覚したが、お前や生徒会のことをそれなりに真剣に考えてるんだ。余計なお世話とか言つてやるな。

どちらかと言えば、お前が気を利かして“書記ちゃんとふたりきりにしてあげた”なんて方が、よっぽど余計なお世話なんじやないだろうか。

部活動説明会の準備も順調に進んでいるならいいが、それよりも気になるのは来月の進路説明会だな。卒業生として雪ノ下さんが話をしに来るそうだが、あの人卒業した高校に頻繁に顔を出し過ぎじやないか？大学は大丈夫なんだろうか。平塚先生も“優秀だつたけど優等生じゃなかつた”って言つてるくらいだから、人当たりも良くて友人も多いのかもしれないが、あの穿つた性格からキャンパスライフを純粹に楽しめてないのかもしれないな。

それと、雪ノ下さんに俺が入院してることをちゃんと話しておいてあげるな。安心して下さらない。むしろ不安だ。それにあの人、昨日見舞に來たし既に知つてるから。

とにかく、お前はくれぐれも余計な事を言わない様に注意していく

れ。

一色がクラスで嫌われてない事を聞いて安心はしたが、別に“お前のこと気にしてるんだぜアピール”なんぞしてない。どう読んだらそんな解釈できるんだ。俺の文通能力もまだまだという事だろうか。ていうか、何で俺がお前にラブレターなんて渡さなきやいけないんだ。全然意味わかんないんだけど。いくら毎日見舞に来てくれたり周りから勘違いされたからと言つて、俺もそこまで頭の中お花畠じやねえよ。ぼつちは常に相手の行動や感情の裏を読むのだ。覚えておくといい。

それに一色だつてラブレターなんて貰い慣れてるつて言つてる割に、俺が手紙渡したとき顔真っ赤にしてたじやねえか。おかげでこっちまで変に意識しちまつた。今時はメールかもしれないが、お前ホントはラブレター貰つた事ないんじや……？

そう言えば、一色は今まで小町と会つた事がなかつたんだな。全然紹介してくれなかつたなんて言われても、そもそもそんな約束した覚えないんだけどね。

まあ、お前が小町を可愛いと思う気持ちはよくわかる。小町の愛らしさを表現するには手紙がいくらあつても足りないが、仮に世界妹選手権があれば、間違いなく日本代表に選ばれるはずだ。お前が“小町ちゃん先輩に似てなくてよかつたですねつ”と言うのも、まあその通りだろう。

だが、小町はうちの妹だ。一色がいくら小町を妹にしたいと言つても無理な相談だ。いいか、人の悩み事には二種類ある。努力したらどうにかなることと、努力してもどうにもならないことだ。悩むだけムダという点でこの二つは同じである。なので一色よ、もう悩むのはよせ。

何にせよ、故意的に紹介しなかつた訳じやないが、俺の中のあざとさランキングトップ2のお前たちが一緒にいるなんて、想像しただけでノイローゼになりそうだ。頼むから面倒になる事だけはするなよ。そのしわ寄せは俺に来る事になる。

勿々

気苦労の多い比企谷

俺的あざとさランキングNo. 1 一色いろは様

追伸

明後日はお前の誕生日だつたな。

最近一色も色々と頑張ってるみたいだし、今年は特別にお前の頼みをひとつだけ、今の俺ができる範囲で聞いてやろう。何でも言つてみろ。

まあ俺は入院中だから大抵の事はできないけどなつ。  
その辺りも踏まえて、よく考へるといい。